

## 李登輝元総統ら台湾オピニオンリーダーを訪ねて (2012年7月)

(株) 第一コンサルタンツ  
右城 猛

### 1. まえがき

坂本龍馬財団の訪台団に加えていただき、7月22日から3泊4日の日程で淡水市と台南市を訪問。

台湾を代表するオピニオンリーダーである李登輝(りとうき)台湾元総統、林蒼生(りんそうせい)氏、許文龍(きよぶんりゅう)氏の3名からレクチャーやレセプションを受けてきた。

#### 日程表

日	時刻	行程
22日 (日)	10:05	羽田空港発 NH115
	12:30	松山空港着 中正紀念堂、龍山寺、忠烈祠観光
	18:30	レストラン聚馥園で北京料理 台北グロリアプリンス泊
	23日 (月)	午前
23日 (月)	12:00	小籠包の店「鼎泰豊」で昼食
	15:00	淡水で基台湾総統李登輝訪問
	18:30	台湾龍馬会のレセプション(欣葉) 台北グロリアプリンス泊
	24日 (火)	8:00
24日 (火)	10:30	統一企業公司を訪問
	10:50	林蒼生総裁のレクチャー
	12:30	林総裁のレセプション(統一企業公司)
	15:20	奇美博物館見学
	17:30	許文龍のレセプション(情定大飯店)
	19:49	台南駅より新幹線乗車
	21:36	台北駅着
22:00	台北グロリアプリンス着泊	
25日 (水)	8:45	桃園空港発 NH1084
	13:00	成田空港着
	16:40	羽田空港発



台湾地図



台北



台南

坂本龍馬財団とは、世界に龍馬スピリッツを発信することを目的に 2012 年 4 月に設立された一般財団。代表理事は、坂本龍馬記念館の森健志郎館長。高知県技術士会幹事の森直樹氏の実兄である。

訪台団への参加は、森直樹氏から声を掛けて頂いたのが切っ掛けである。台湾は、平成 11 年に 921 台湾大地震の調査、そして今年の 2 月に観光をしていたが、20 世紀の偉大な政治家・李登輝元大統領に拝謁できると聞き、夫婦で参加させていただいた。

台湾出発の直前に、龍馬財団より黄金の会員証と坂本登氏がデザインしたブルーのバッジが送られてきた。会員証の裏側には、「私の龍馬スピリッツ」を書くようになっていた。同時に送られてきた資料を読むと、龍馬スピリッツとは、「私心なく志は高く公に尽くす」ということであり、龍馬財団の目的は「龍馬スピリッツあふれる人材の育成」にあるようだ。

会員は、会員証を常に持参し、自らの龍馬スピリッツを確認しながら行動しなければならないことになっている。

会員にはなったものの、「私の龍馬スピリット」が何なのかを決めることができないまま台湾へ発つことになった。

訪台団のメンバーは、森健志郎館長を団長に、坂本家 9 代目当主坂本登氏ら財団の評議員と理事を中心にした総勢 35 名であった。

参加者は高知、福岡、東京から来るので、全員が顔を合わせるのは羽田国際空港が最初。



会員証とバッジ

## 2. 台北市内観光

高知龍馬空港を 7 時 35 分発の ANA で出発。羽田国際空港を経由して台北の松山空港へ到着したのは、現地時間の 12 時 30 分(日本は 13 時 30 分、時差は 1 時間)。



台北の松山国際空港到着



坂本龍馬財団代表理事の森健志郎氏より挨拶



台湾総統が勤務する総統府



台北の東門



## 中正紀念堂

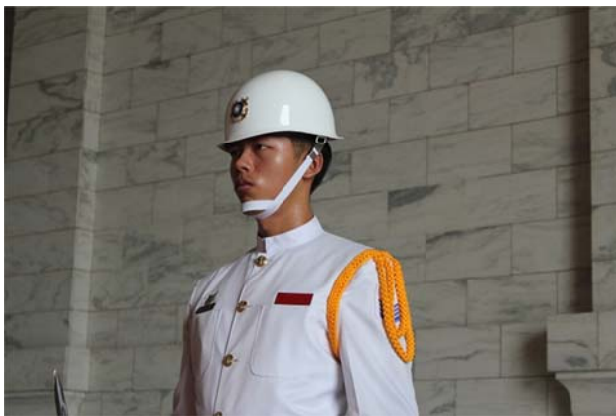
空港から中正紀念堂に直行する。途中の車窓から台湾総統が勤務する総統府などを見学する。

中正紀念堂は、中華民国の初代総統である蒋介石を顕彰するために死後から 5 年後の 1980 年に竣工した。

見所は衛兵の交代儀式。毎日、10 時から 17 時まで 1 時間毎に行われている。



中正紀念堂



微動出せず衛兵が立っている。



衛兵の交代儀式



衛兵の交代儀式を見学する観光客。この部屋は冷房が効いてなく、熱くてたまらない。



柱廊の日陰では、男達が金を掛けて台湾将棋に夢中になっている。

## 龍山寺

龍山寺(りゅうざんじ)は、台北では最も歴史がある「万華」という地区にあり、1738年創建という古いお寺。その後何度も戦禍に見舞われ、改修と再建を繰り返しながら、今までこの地の信仰を一身に集めている。

270年という年月をかけ、たくさんの神様が一堂に会する、いわば「神様・お祈りごとのデパート」となっている。



龍山寺の中門の前で





龍山寺の中庭で台湾ガイドの宋さんからお祈りのルールを習う。



竹ひごと同じ数字が書かれた引き出しの中におみくじがある。



自分の氏名、住所、願い事を一つだけ念じながら線香を投げ入れると願いが叶う。



竹ひごの先端に数字が書かれている。



中庭の池の噴水

### 忠烈祀

台北の忠烈祀には、中華民国建国以来の戦死者 33 万人の英霊が祀られている。日本の靖国神社のような存在である。

ここも観光のハイライトは、9時から17時まで1時間毎に行われる衛兵の交代式。



忠烈祀の正門。正門に二人の衛兵が立っている。





正門に立っている衛兵



台北市内の風景



帽子デザイナーの山本正子さん

### 聚馥園と寧夏(ねいか)夜市

夕食は、市内のレストラン聚馥園(しゅふくえん)で北京料理を満喫する。

その後、元土佐電トラベル社長の浜田宏氏に案内していただき、静岡理工科大学の志村史夫教授、元中芸高校校長の竹内土佐郎先生御夫妻、高知新聞社の安岡仁志氏、地研社長の建森直樹氏と一緒に寧夏夜市に行く。



(株)ダイドウの宮尻千恵子社長、高知新聞社の安岡仁司氏、家内。料理は北京ダック



忠烈祀から出てきて正門に向かう衛兵



森健志郎代表理事(中央)、坂本家九代目の坂本登氏(右)と筆者(左)





(株)ハンズハウスの小沼百合子社長、作詞家で延岡龍馬会会長の金子裕則氏、歌手で延岡龍馬会会長補佐の河村泉兵衛



6人とも肉ラーメンを注文。皆さんラーメンは別腹のようである。



寧夏夜市には、肉、果物、魚、カエルなどを売る屋台が道路の両側に並んでいる。



これが台北の屋台の肉ラーメン

### 3. 九份

坂本龍馬財団の一行の観光地は、当初は九份であったが、時間の都合で故宮博物館に変更になっていた。

(株)四国運輸の小川雅弘社長、(株)船井本社の船井勝仁社長、(株)ソームの川上美晴さん、(株)にんげんクラブの兒玉裕子さんたちは、タクシーをチャーターして九份に行くということを聞いたので、わたし達も同乗させてもらうことにする。

故宮博物館は今年の2月に見学しており、九份を楽しみにしていたのである。

九份は日本統治時代、藤田組による金の採掘で賑わった町であり、当時の面影を色濃く留めている。

1971年に金鉱が閉山されてから町は寂れていたが、1989年に二・二八事件を取り上げた「非情城市」という映画が大ヒットした事で人気が高まり、2001年公開の映画「千と千



「尋の神隠し」のモデルになったことから、台湾の観光スポットとして定着している。

「非情城市」(A City of Sadness)とは、それまでタブー視されてきた二・二八事件を正面から取り上げて、台湾で空前のヒットとなった映画である。映画を通じノスタルジックな風景に魅せられた若者を中心に多数の人々が九份を訪れ、また他のメディアにも取り上げられるなど、台湾では90年代初頭に一時九份ブームが起こった。



小川さん、船井さん、兒玉さんと家内



狭い道の両側に土産物屋と食堂が並ぶ基山街



基山街



10時に開店したばかりで人通りは少ない



基山街でピワの実を購入。ピワの実で作ったジュースを味見



非情城市のロケ地





非情城市のロケ地



茶藝館「阿妹茶楼」の二階



金鉱から鉱石を運び出す人形の像



「阿妹茶楼」でお茶菓子を食べながら一休み。



「千と千尋の神隠し」に出てきた茶藝館「阿妹茶楼」。湯婆婆の館のデザインの参考になったと言われている。



「阿妹茶楼」の二階のバルコニーからの眺めは抜群に素晴らしい。





「阿妹茶楼」の二階の天井に飾られた日本統治時代に日本軍が使っていたラップ。



「阿妹茶楼」の一階



この石臼は、お茶を捨てる道具だろうか？



美味しい落花生のお菓子を売っている店



商店が開店した10時頃は空いていたが、11時になると混雑してきた。この狭い中をバイクや乗用車がすり抜けていく。



九份で見かけた墓地

#### 4. 鼎泰豊の昼食



小籠包が世界一美味しい店「鼎泰豊(デントアイフォン)」で昼食をとる。



これが一番人気の小籠包





エビが上に乗ったシューマイも美味しい

## 5. 李登輝元総統を表敬訪問

昼食の後、台北のホテルに一旦帰ってスーツに着替え、バスで淡水にある李登輝元総統のオフィスを表敬訪問する。目的は、昨年の11月に大腸がんの手術を受けられた李元総統に拝謁し、全快のお祝いを申し上げると共に、龍馬財団名誉会員への就任をお願いすることにあった。



ビルの30階が李元総統のオフィス



スーツにネクタイ姿。胸には名札、襟には龍馬財団の会員バッジを付けている。左より森直樹社長、筆者、船井勝仁社長。



用意されていた30階の会議室。超多忙にも関わらず、龍馬財団のために15時～17時まで2時間もの時間をとって下さった。



森健志郎代表理事との再会を喜ばれる李元総統



当初の打ち合わせ通り、最初に元・中芸高校の校長をされていた竹内土佐郎先生が、李元総統の正面に起立して、坂本家九代目坂本登氏作詞の「龍馬甚句」を朗詠された。

李元総統がとても気に入られ、夕方の台湾龍馬会のレセプションの場でも唄ってくださいと注文を出された。





続いて、クラシックギタージュオの「いちむじん」が、NHK大河ドラマ「龍馬伝」のBGMや「南国土佐を後にして」を演奏。素晴らしい。



紋付き袴に着替えた「金子裕則&河村泉兵衛」が、「RYOUMAからの手紙」(作詞 河村泉兵衛、作曲 金子裕則)を披露。

河村泉兵衛氏は前田利家の末裔。昭和7年に来日したチャップレンが、帝国ホテルで海老の天ぷらを食べて以来、天ぷらの大ファンになった。その天ぷらを揚げたのが祖父。

実弟の河村正二氏は東京大学の教授で、先端生命科学がご専門。



見守る龍馬財団のメンバー



理事の竹内先生が、書道作品をプレゼント。



会場から見守る龍馬会のメンバー



帽子をプレゼントする山本正子さん。



奥様の帽子のプレゼントもちゃんと用意されていた。





評議員の宮尻千恵子さんは枡などのプレゼントを用意



評議員の小沼百合子さんは、ガラス作品をプレゼント



森健志郎代表理事からは、龍馬財団名誉会員の会員証とバッジを寄贈。



講演をしてくださる李元総統

その後李元総統は、90分間にわたり訪台団一行のために、日本語でレクチャーして下さいました。世界の政治経済の情勢を踏まえ、今後の日本はどうすべきか、という内容の話であった。

「政治家は国益と国民の幸せを第一に考えなければならない。世界の政治経済が混沌としている今の時代こそ、坂本龍馬のように大きな志をもった青年が出てこなければならない」と熱く語られた。

李元総統は、現代の日本人以上に「日本精神」、「日本人の心」を持っておられる。国を愛し、人民を愛する気持ちが非情に強い。このような人が日本のリーダーであればと参加した誰もが思ったことだろう。

偉大なる李元総統の講演を直接、間近で聞くことができたことは、私にとって夢のような出来事であった。私の隣にいた人達が「ものすごいオーラを感じた」「鳥肌が立った」「感動して涙がでてきた」と話していたが、私も同感であった。

最後に李元総統を囲んで、全員で記念撮影をする。

## 6. 台湾龍馬会主催のレセプション

18時30分より台湾龍馬会主催のレセプションを台北市内のレストラン「欣葉」で開催していただいた。

料理は台湾料理であった。





挨拶をされる台湾龍馬会の連紅豊会長。



17年もののザ・マッカラン



お礼の挨拶をする森健志郎代表理事



台湾龍馬会の名誉会長をされている李登輝元総統も出席して下さい、貴重な20年物の紹興酒と17年物のザ・マッカランのウイスキーを私たちのためにごちそうして下さい。







各テーブルを回り歓談をされる李元総統



彫刻家の西本忠男先生のタクトに合わせて演歌を歌う志村先生と台湾龍馬会の皆さん



最後は「いちむじん」のクラシックギターによる「南国土佐を後にして」の演奏でレセプションが締められた。

「いちむじん」とは高知の古い言葉で「一所懸命」という意味。

高知県立岡豊高校出身の宇高靖人さん(写真左)と山下俊輔さんのお二人で、2004年に結成。

## 7. 高速鉄道で台南へ

24日、台北駅8時発の台湾高速鉄道に乗る。日本の新幹線700系を改良した車両を採用している。開通したのは2007年。

ドイツ・フランスの欧州方式で設計を進めていたところ、1998年にヨーロッパの高速列車ICE (Intercity-Express) が脱線事故を起こし、多数の死者・負傷者を出した。1999年には921台湾大地震が発生したことで、地震に対する防御策が十分でない欧州方式よりも、早期地震検知警報装置(ユレダス)を導入していた日本の新幹線が優れていると言うことで、日本の車両が採用されることになった



李元総統の話に熱心に耳を傾ける龍馬財団の皆さん。病後であるにも関わらず、20時40分まで私たちと一緒に歓談して下さいました。



た。

台北駅から高雄市の新左営駅までの345kmを結んでいる。最高速度300km/h、ノンストップ便なら台北と高雄間を1時間20分で走る。



近代的な台北駅



台北8時発の高速鉄道に乗る



9時43分に台南駅に到着する

## 8. 統一企業公司を表敬訪問

24日10時40分、台南市永康区にある統一企業公司を訪問した。この会社は、台湾や

中国などでセブンイレブン、キッコーマン醤油などの小売業を展開し売上高3兆円を誇る台湾最大の小売会社である。

龍馬財団の評議員・船井勝仁氏の御尊父に当たる船井総合研究所の船井幸雄会長が、創業者の高清愿氏と懇意にされている関係で、今回の訪問が実現したようである。



統一企業公司の本社



玄関の電光掲示板には「歡迎 坂本龍馬財団一行興船井勝仁社長蒞臨指導」と表示。





ロビーの壁に、毛筆で書かれた作品が大きな額に入れられて飾られていた。

作品を鑑賞されている竹内土佐郎先生は、柔道で国体に出場された6段の腕前であるが、書道においても名人の域にある。

故宮博物館に行かれていたので、書道の感想をおたずねしたところ、展示されている作品はレプリカなので迫力が感じられなかったと話されていた。この作品はどうであろうか。



私たちが案内されたのは、背もたれと肘掛けの付いた立派な椅子が約200脚、学校形式に並べられたホールであった。正面の壁には、「塑化剤事件 統一之恥」「DyDo 包装水事件 統一の恥」と書かれた横幕が張られていた。

「塑化剤事件」とは、昨年5月、食品添加物である乳化剤「起雲剤」の原料に、がんや機能障害を起こすとされる可塑剤、DEHPが使用されていたことが発覚し、台湾を震撼させた食品汚染事件である。

「DyDo 包装水事件」とは、昨年6月、台湾から輸入したミネラルウォーター「ミウLV525ml ペットボトル」のキャップの不具合により水漏れがあり、ダイドードリンクが自

主回収した事件である。

企業の信用に関わる問題が起きた場合、二度と発生しないような取り組みを全社的に行うのは当然である。しかし、横幕に大きな字で「〇〇之恥」と書き、一年以上経った今でも忘れることがないように掲示していること、しかもその掲示場所に海外からの訪問客を案内したことに驚いた。ここまで徹底して再発防止に取り組む企業があることを知り、勉強になった。

評議員の船井社長は、急遽、日本に帰らなければならなくなったので、挨拶をして退席された。挨拶の中で、父・船井幸雄が尊敬する経営者は「松下幸之助、サムソンの創業者イ・ビョン Chol、統一企業会社の創業者高 清愿(こうせいげん)」で、この3人から経営を学んだという紹介があった。



統一企業会社は、1967年に高 清愿氏が創業し、一代で台湾ナンバーワンの小売業まで育て、それを現在の規模まで発展させたのが、二代目の林蒼生(りんそうせい)総裁である。

林総裁から、12時40分まで約2時間にわたって、経営のポイントについてのレクチャーを受けた。

レクチャーの中で印象に残ったのは、「人は少しでも条件が良い会社があれば辞めてその会社に移る。しかし、統一企業は社員を大切にしているので定年まで働いてくれる。経営者には義理人情がなくてはならない。企業のサイズは、経営者の心のサイズで決まる」という言葉であった。



創業者の高清愿氏は、「台湾の松下幸之助」と呼ばれている。林総裁は、創業者の経営理念をしっかりと引き継ぎ、それが会社発展の原動力になっているのだろうと感じた。

12時50分からは会場を統一企業会社の迎賓室に移し、林蒼生総裁主催のレセプションをしていただいた。



肉、マグロのトロ、大きなエビ、ホタテ、無農薬のトマトジュースなど食べきれないほどの豪華な料理が用意されていた。



挨拶をされる森健志郎代表理事



お礼に「金子裕則&河村泉兵衛」が、「RYOUMAからの手紙」を披露。



船井幸雄会長が「協伸!!」と書かれた書を、(株)にんげんクラブ編集室の兒玉裕子さんの手から林蒼生総裁に渡された。



「いちむじん」も「南国土佐を後にして」を演奏。



林蒼生総裁の挨拶



林蒼生総裁と記念撮影





私も林蒼生総裁と記念撮影。

## 9. 奇美実業グループを表敬訪問

最後の訪問先は、台南市仁徳区にある奇美博物館。奇美博物館は、奇美グループの創業者、許文龍氏の社会貢献の経営理念の下、1992年に設立された博物館。

奇美実業は1959年に、許文龍氏が創業した会社。家電や自動車部品の原料であるABS(アクリロニトリル、ブタジエン、スチレン)樹脂では世界最大のメーカー。その生産高は100万トンで、2位のGEの76万トンを大きくリード。日本10社のトータルは79万トン。

### 奇美博物館

15時に奇美博物館にお邪魔する予定であったが、スコールのため15時20分に到着。

8階建ての建物のうち、5階から8階に美術品が展示されている。17時まで約1時間30分、博物館の顧問をされている石栄堯(せきえいぎょう)氏が、展示品の説明をして下さった。西洋美術、音楽、歴史など広範囲にとっても造詣が深い方である。

5階は絵画や彫刻などの美術品、6階は世界中の楽器と兵器が展示されていた。日本の刀や鎧甲鎧、火縄銃の種子島があった。100年ほど前のオルゴールや自動ピアノなども展示されており、演奏を聞かせていただいた。

7階はエジプトの棺、発掘された土器など考古学的なもの、ヨーロッパのアンティーク家具が展示されていた。

8階には動物の剥製、蝶の標本が展示されていた。巨大な白熊とか麒麟、ライオン、コアラ、ペンギンなどいろいろな動物や昆虫、化石、巨大な隕石が展示されていた。

孫の祐希が小学生になった頃に連れて来てあげたいと思った。本物を見て目を養っておけば、きっと将来に役立つに違いない。

奇美博物館は、許氏が趣味で集めた美術品を展示し、無料で一般に公開されている。展示できるのは所蔵品の1/3にも満たないので、この5倍の規模の博物館を建設中であり、完成すれば台南市に展示品共々寄贈される予定という説明であった。

台湾人から尊敬され「台湾近代化の父」と呼ばれている後藤新平が、座右の銘としていた言葉に「金を残す人生は下、事業を残す人生は中、人を残す人生こそ上なり」がある。許文龍氏は、この言葉を経営理念にしているように思われる。



博物館の前庭には、ギリシャ時代の像のレプリカや日本統治時代の大砲が展示されている。



博物館を案内してくれた石栄堯顧問



## 許文龍会長主催のレセプション



情定大飯店というホテルへ移動し、許文龍氏や奇美の社員の方がわたし達を豪華な料理とバイオリンの演奏でもてなしてくださいました。



昼も夜も豪華な料理のおもてなしを受けた



歓談をされる志村史夫教授、許文龍氏、森健志郎代表理事

許氏は、50歳からは会社に出勤するのは週2日だけで、毎日釣りや絵画、音楽を楽しんでおられるそうである。

許氏は実業家であるが、芸術家とても並外れた才能を持っておられるようである。

「河畔の浴場」という日本人に似た女性の裸体を描いた絵画がとてもお気に入り、それをご自身で模写され、本物と並べて展示していたら、見学客が模写した絵を本物と見間違ふということで、現在は外しているというエピソードを石栄堯顧問が話して下さいました。

彫刻家としても優れた技術を持っておられ、台湾に貢献した日本人の功績を顕彰するため胸像を製作している。博物館に展示されていた新渡戸稲造と鳥居信平(とりいのぶへい)の胸像は、その中の二体であった。

訪台団に参加されていた静岡理工科大学の志村史夫教授から、教授が執筆された静岡新聞のコラム記事を旅行後にメールで送っていただいた。それを読んで、許文龍氏を訪問することができたのは、鳥居信平のお陰であることを知った。

台湾最南端の屏東県(へいとうけん)では、台湾統治時代に農業土木技師鳥居信平によって造られた地下ダムが、80余年経ったいまも変わらず、20万人以上の地域住民の生活を支えている。許文龍氏は、この功績に報いるため鳥居氏の胸像を製作し、鳥居氏の出身地である静岡県袋井市に寄贈された。曹屏東県長



らが出席して開催された除幕式と懇親会に、志村教授も出席されており、奇美博物館の関係者との縁が生まれたのである。



食事の後、許氏がバイオリンを演奏され、二人の女性社員が美しい声で日本の懐かしい曲を歌って下さった。

最後に、許会長のバイオリンの演奏で、「荒城の月」「上げば尊し」「蛍の光」を全員で合唱した。奇美の社員の方も感動され、涙ぐんでおられた。



森代表理事から、許会長に日本からのお土産が手渡された。許文龍会長からは、龍馬財

団の全員にご自身が執筆された著書「台湾の歴史」を贈呈していただいた。

## 10. 台北から桃園国際空港へ

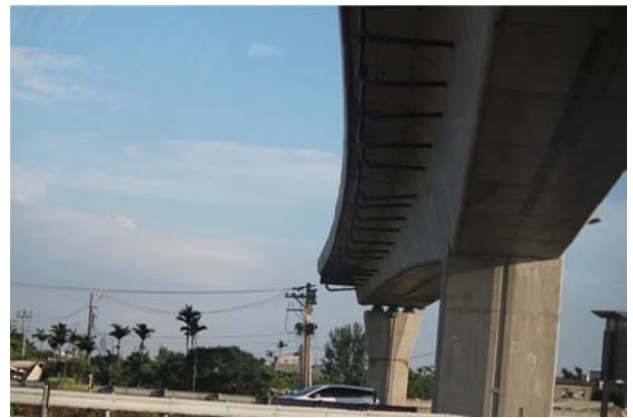
帰路は桃園国際空港から成田国際空港を経由して高知に帰る。

桃園国際空港は台湾最大の国際空港。台北から車で約1時間の距離にある。日本で言えば、成田国際空港のような存在である。

現在、台北駅と桃園国際空港を結ぶ新交通システム MRT(Mass Rapid Transit)が2013年の開業を目指して建設中である。建設工事の一部は日本の清水建設が行っている。新交通システムは、丸紅・川崎重工業・日立製作所の日本連合が受注している。

鉄道が完成すれば、台北駅から50分かかるのが35分に短縮されることになる。

台北市内では地下鉄工事も行われている。台湾は現在も急成長を続けている。



工事中の新交通システム



台湾の観光ガイドの宋さん



## 11. 嘉南平野の稲作

台北駅から台湾高速鉄道に乗って台南へ移動する途中、窓の外を眺めていると、広大な水田地帯が見えた。嘉南平野(かなんへいや)である。2月に植えた稲の収穫が済み、二期作目の田植えが終わったばかりであった。

嘉南平野は台湾最大の平野であるが、元々はサトウキビすら育たない不毛地帯であった。現在、台湾最大の穀倉地帯として潤っているのは、台湾統治時代に土木技師八田与一が技術指導し、10年の歳月を費やして完成させた嘉南大圳(かなんたいしゅう)と呼ばれる烏山頭(うざんとう)ダムと灌漑用水があるためだ。

そして、ここで作られている米は、後に台北帝国大学の教授になる磯永吉が、15年の歳月をかけて品種改良に取り組み、1940年に完成させた「蓬莱米(台湾米)」だ。

八田与一は「嘉南大圳の父」と呼ばれ、毎年5月8日の命日には、嘉南農田水利組合の人々によって今でも墓前で慰霊祭がとり行われている。また八田の功績は、教科書でも紹介されている。

磯永吉は「蓬莱米の父」と呼ばれ、磯が1957年に帰国した後、台湾政府は毎年20俵の蓬莱米を終生磯に贈っている。2012年には、磯の功績を顕彰するため台湾大学に胸像が設置された。

台湾が後に奇跡的な経済成長を遂げた背景には、蓬莱米と砂糖の増産で稼いだ外貨を元手にした工業化政策があったと言われている。

## 12. 台湾で感じたこと

### (1) 親日家

台湾に親日家が多いことは知っていたが、三人のオピニオンリーダーにお会いし、これほどまでに日本が愛されていたことに正直驚いた。

日本を好きと言う理由は、戦後まで50年間続いた台湾統治時代の植民地政策にあるようだ。

明治政府は、台湾を植民地というよりも内

地の延長と見て、欧米から取り入れた最先端の技術と莫大な予算と優秀な人材を投入し、教育、上下水道の建設、港や鉄道の整備、田畑の灌漑に力を注いでいる。

許文龍氏は、彼の著書「台湾の歴史」の中で、「戦後まで50年間続いた日本統治時代、日本ほど良心的な植民地政策を取った国はなかった。日本はインフラ整備に膨大な金と人材を注ぎ込んだ。それも、投入した資金が直ぐには回収できない医療や教育に力を入れた。これがなければ、今日の台湾の発展はなかった。戦前の日本人には使命感に燃え、遵法精神が強い立派な人が多かった。先生は皆日本から来ていたが、戦後に教え子から台湾に招かれていない先生はほとんどいない。何回も来ている。当時の先生が如何に台湾の子供たちのために一生懸命教育してくれたかを証明している」と書いている。

戦後における反日教育や近年の尖閣諸島における領有地問題などで親日家がいなくなるという意見もある。しかし、昨年(2011年)の東日本大震災の際、人口がわずかに2300万人の台湾から200億円を超える義援金が届けられた。台湾は、やはり世界一の親日国である。

### (2) 日本精神

帰国の際、桃園国際空港に着いてから、財布がないことに気がついた。財布には現金以外に、運転免許証や健康保険証など日常生活に必要なカードを全て入れていた。

ホテルに置き忘れたことが考えられたので、添乗員を通じてホテルに連絡を入れてもらっていた。すると2日後に旅行会社から宅配便で財布が届いたという連絡をいただいた。

財布を開くとカードは全て入っていたが、現金はなくなっていた。カードさえ戻れば良いとあきらめていたところ、さらに2日後に「保険付」の判が押された書留郵便で現金が送られてきた。

日本では当たり前かも知れないが、海外では紛失物が戻らないのが当たり前である。



台湾人は、「日本精神」という言葉を良く使う。台湾語で「リップンチェンシン」と言い、「清潔」「公正」「勤勉」「責任感」「正直」「規律遵守」などの意味が含まれているようである。

私の財布紛失事件で、台湾に「日本精神」が根付いていることを実感した次第である。



ホテルから現金が送られてきた書留便

### (3) 龍馬スピリッツ

台湾統治時代、日本から多くの教師や技術者が大志を抱いて台湾に渡り、使命感に燃え、身命を賭して台湾の発展に尽くした。この人たちが持っていた日本精神こそ「龍馬スピリッツ」であるように思える。

その龍馬スピリッツを、戦前の日本教育を受けた台湾人たちは受け継ぎ、戦後における台湾の民主化や経済発展の原動力にしている。中でも、李登輝元総統ほど、龍馬スピリッツを受け継ぎ、それを実践した人はいない。

### 謝 辞

今回の台湾訪問でお会いした方々は、大変な親日家であるとは言え、超多忙な方ばかりである。よほどのことがないかぎりお会いすることは不可能である。

お会いできたのは、坂本龍馬記念館の森健志郎館長、株式会社船井本社の船井勝仁社長、静岡理工科大学の志村史夫教授らの尽力によるものであり、心より敬意を申し上げる。

坂本龍馬財団に対して何の貢献もしていな

い私たち夫婦を訪台団の一員として加えていただき、皆様には何かとお世話戴いた。心より御礼申し上げます。

### 参考文献

- 1) 李登輝：日台の「心と心の絆」～素晴らしき日本人へ、宝島社、2012.6
- 2) 蔡焜燦：台湾人と日本精神(リップンチェンシン)―日本人よ胸をはりなさい、小学館文庫、2001.8
- 3) 金美齡：私は、なぜ日本国民となったのか、BUNKO、2010.2
- 4) 高青愿：高青愿の率直経営 美しい企業を求めて、プレジデント社、2000.10
- 5) 志村史夫：時評 地下ダムの功績 台湾から鳥居信平の胸像、静岡新聞、2009.8.11
- 6) 許文龍：台湾の歴史、奇美実業、2020.4
- 7) 週刊東洋経済：台湾を震撼させた食品汚染 乳化剤に可塑剤が添加、第 6334 号、2011.7.2
- 8) 財経新聞：ダイドードリンコ 輸入ミネラルウォーターを自主回収、2011.7.1
- 9) 古川勝三：台湾を愛した日本人(改訂版) - 土木技師 八田與一の生涯、創風社出版、2009.4
- 10) 平野久美子：水の奇跡を呼んだ男―日本初の環境型ダムを台湾につくった鳥居信平、産経新聞出版、2009.6

李登輝元総統には肖像権があります。このレポートの取り扱いには注意して下さい。

【2012年7月28日記、8月15日修正】